

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月10日現在

機関番号：32627

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22530722

研究課題名（和文）「読み聞かせ」活動の発達の变化と言語リテラシー獲得への影響過程の分析

研究課題名（英文）The development of co-reading activity between mother and child and its effect on the child's acquisition of linguistic literacy

研究代表者

田島 信元 (TAJIMA, Nobumoto)

白百合女子大学・文学部・教授 研究者番号：90002295

**研究成果の概要(和文)**:乳幼児期の母子の相互行為としての絵本の読み聞かせ活動の構造と機能の変化過程と、子どもの言語リテラシー操作能力および言語発達、認知的、社会・情動的発達への影響性を検討した結果、読み聞かせ中の母子間の活発な社会的対話活動が子どもの社会・情動的発達を導くとともに、私的言語を伴う自己内対話（社会的対話の内面化）活動を導き始める第一段階（0-1歳台）から、読み聞かせ中の社会的対話は減少するが、母子の社会・情動的相互行為が子どもの盛んな自己内対話活動を導き、さらに読み聞かせ後の子どもの自己表現活動（描画、ごっこ遊び、作話活動）を介して、言語発達や認知発達につながっていく第二段階（2-6歳台）へと変化していくことが明らかとなった。

**研究成果の概要(英文)**:This study examined the developmental change of the co-reading activity between mother and child from infancy to preschool period and its effects on the child's acquisition of linguistic literacy, verbal, cognitive and socio-emotional development. The results showed that the structure and function of the co-reading activity between mother and child changes from the first developmental stage found among 0-1 year of aged infants to the second stage found among 2-6 year of aged children. In the first stage, social dialogue between mother and infant in their co-reading activity indicates to lead the infant's private speech (infant's inner dialogue with his/her mother) and also suggests to effect on the attainment of the attachment relationship between mother and infant. In the second stage, mother's respect to the child's private speech in their co-reading activity and stimulation of the child's self-expressive activities (ex. drawing, symbolic play, story-making) after their co-reading activity suggest to effect on the child's acquisition of linguistic literacy, and cognitive development.

交付決定額

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011年度	700,000	270,000	910,000
2012年度	1,200,000	360,000	1,560,000
総計	3,100,000	990,000	4,030,000

研究分野:社会科学

科研費の分科・細目:心理学

キーワード: 読み聞かせ、社会的相互作用、自己内相互作用、母子関係、愛着形成、言語リテラシー、言語発達、歌いかけ

## 1. 研究開始当初の背景

近年、子どもの読書離れに拍車がかかり、基礎学力低下という問題にまで結びつけられて世間を賑わしている。これは確かに、言語リテラシー獲得、ひいては言語発達不全という子どもの発達上、根幹的な問題と関わっていると考えられるが、しかしそれだけでなく、核家族、少子化という文脈における密室状況での養育者と乳幼児の相互行為の歪な状況という重大な問題を含んでいると考えられる。なぜなら、言語獲得そのものは養育者と乳幼児の最適な相互行為を通して促進されることが強調されているからである (Vygotsky, 1978; Bernstein, 1961)。

こうした社会的問題の解決は急を要すると考えられており、様々な実践レベルの活動が世界的に広まってきている状況にあるが、発達心理学研究、教育心理学研究の領域においては、親子関係の研究や言語発達、読解力の発達の研究の蓄積はあるものの、その両者を統合した研究の蓄積はほとんど見られないのである。

しかしながら、理論的な観点からはいくつかの重要な指摘がある。第一には、Tomasello (1999) が子どもの発達を言語リテラシー獲得を含む文化習得の過程ととらえ、養育者と子どもの共同注視的相互行為における模倣学習 (imitative learning) のもつ文化習得に対する貢献を強調していることである。第二には、言語リテラシー獲得の問題に焦点化するかたちで Cole (1995) が、絵本を介しての共同注視を含む養育者と乳幼児の相互行為に注目し、その過程で子どもが言語リテラシーを獲得していくプロセスの理論的モデルを提起しているのである。

Cole (1995) の提起は、従来から世間的あるいは保育実践上において、絵本の読み聞かせが子どもの発達、とりわけ母語獲得に大きな影響を及ぼすといわれてきたことと軌を一にするが、残念ながら、未だ実践知のレベルにあり、科学的な検証については、国際的にも、国内的にもほとんど見あたらないのが現状である。しかしながら、絵本の読み聞かせは、子どもの生誕直後から地域社会が家庭に本を提供するというブック・スタート運動といった社会的運動にまで発展してきているように、重要な活動であると認識されつつあるが、単に、子どもに本を与えればよいという問題ではない。少なくとも、絵本の読み聞かせ活動を通して養育者と乳幼児の相互行為の構造と機能の質を高め、そこでの学習過程を通して言語リテラシー

獲得、言語発達が生起していく過程を実証的に明らかにすることで、豊かな親子関係形成の促進(支援)、言語発達促進、ひいては読書離れ、基礎学力低下をくい止める方策がたつと考えられた。

そこで本研究は、絵本の読み聞かせ活動という養育者と乳幼児の相互行為を通して子どもが言語リテラシーを中核とした言語、認知、社会・情動的発達を達成していく過程を実証的に明らかにしていくことを目指した。

## 2. 研究の目的

(1) 絵本の読み聞かせ活動という養育者と乳幼児の相互行為の構造と機能について、乳幼児の発達にしたがって変化していく過程を横断的および縦断的に明らかにする。

(2) そうした相互行為が子どもの言語リテラシー操作能力を中心とした読書・言語使用能力、また、より一般的な認知的、社会・情動的発達の達成との関連を同定し、影響関係を推測する。

## 3. 研究の方法

1) 研究対象者: 0～6歳の子どものとその母親で、横断分析は各年齢段階 15～18組の合計 114組。縦断分析は0～1歳児5ケース。子どもの性別はほぼ半々。

### 2) 研究手続き:

#### 【A】横断研究

①家庭訪問場面で母子間の読み聞かせ活動および読み聞かせ後の活動(事後活動)の観察

②母親に対する日常生活における読み聞かせの実践活動についての質問紙と面接調査

③各年齢段階の子どもについて、母親への質問紙・面接を通した子どもの言語リテラシー操作能力、言語発達状況、読書能力状況、およびKIDSを使用した全般的な認知発達、社会情動的発達の母親による査定

#### 【B】縦断研究

横断研究と同様の設定で母子の読み聞かせ場面を、各家庭で、1ヶ月ごとにビデオに収めてもらい、ケースの縦断的变化過程を分析した。観察期間は、ケースにより1年～3年間にわたった(現在も1ケースは継続中)。

3) 分析の手続き: 読み聞かせ場面の母子の行動はビデオ資料に基づく行動評定法と時間経過に従った母子の行動カテゴリーの頻度をチェックするチェックリスト法を併用する(横断・縦断研究共通)。横断研究では、これらの観察指標と質問紙・

面接資料の読み聞かせ環境に関する資料を独立変数として、子どもの言語リテラシー能力・言語発達状況・読書能力、一般的な発達指標を従属変数として、その間の相関関係を分散分析、共分散構造分析により吟味することで、読み聞かせ活動の言語リテラシー能力を中核とした子どもの発達発達への影響のあり方を推定する。

#### 4. 研究成果

(1) 0-1歳台の第一段階から2-6歳台の第二段階に至る「読み聞かせ活動の構造(母子の活動構造)と機能(活動の効用)」の発達過程が同定され、その過程で、社会・情動的発達、子どもの言語リテラシー獲得、認知発達指標との間で関連が見られ、影響関係が示唆された。

(2) 第一段階では、0歳台は絵本を媒介とした母子の対話的活動が中心であるが、1歳台になると子どもは黙って聞くことが多くなることが示され、対話的活動の内面化の始まりが示唆された。この段階の読み聞かせ活動はまず、母子間の情動的な信頼関係(愛着関係)の形成を促進しながら、子どもが母親の援助を受けて共同注視、「子-絵本-母」という三項関係に基づく社会的対話活動の中での学習環境設定を行うことから始まり、次第に、社会的対話活動の内面化を通じた自己内対話を中核とする個人的活動へと進んでいく過程を辿ることが示唆された。

(3) 第二段階では、熟考しながら聞く個人的、自己内対話的活動(一人でつぶやいたり、ことばで絵本に言及しながら聞く活動)が深まり、母子間の対話的な読み聞かせは減少する。

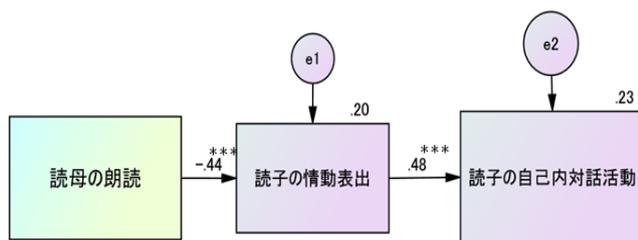


Fig. 1 読み聞かせ時(読)の母子の社会・情動的相互行為が子の自己内対話活動に対する影響的関連を示すパス図 [第二段階]

しかし、母親の一边倒な朗読的読み聞かせは子どもの社会・情動的反応を低下させ、引いては子どもの自己内対話活動を低下させる側面があり(Fig. 1)、やはり、子どもの自己内対話活動を基盤とした積極的な言語的、認知活動は、母子間の社会・情動的相互行為が土台になっていることが強く示唆された。

さらに、上記のことは、読み聞かせ後の母子間

の展開活動(絵本にかかわる描画・ごっこ遊び、作話活動)でも大きく発展する形で確認され(Fig. 2)、子どもの表出言語の指標へとつながっていた。

第二段階では、読み聞かせ時の子どもの熟考的な活動の成果が、事後の展開活動で活発な自己表現活動として現れてくることが示唆されるとともに、社会・情動的相互行為に支えられた子どもの活発な自己内対話活動が、自己表現活動を経て、言語的、認知的発達を導いてくるという影響関係が強く示唆された。

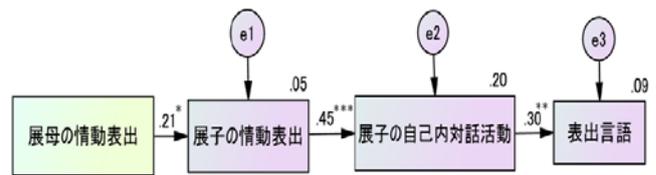


Fig. 2 展開活動(展)における母子の社会・情動的相互行為が子の自己内対話活動・表出言語発達に対する影響的関連を示すパス図 [第二段階]

(4) 以上の結果から、読み聞かせ活動の構造と機能は、社会的対話活動が盛んな第一段階から、個人的、自己内対話的活動が盛んになる第二段階へと変化することが示された。特に、第二段階における自己内対話活動を導く母子の社会・情動的相互行為が、子の言語発達に強く関連してくることから、子どもの発達には社会・情動的発達が基盤となって、言語、認知発達が促進されることが示唆された。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 7 件)

①板橋利枝・田島信元・小栗一恵・佐々木丈夫・中島文・岩崎衣里子、『「歌いかけ・読み聞かせ」実践が母子関係の発達に及ぼす影響-KUMON「こそだてちえぶくろ」プログラムの意義と持続的効用-』、生涯発達心理学研究、査読無、4巻、2012、pp81-104

②宮下孝広・田島信元・佐々木丈夫・石川忍・伊東直登、『社会的活動としての読み聞かせ活動-2011年度塩尻市読み聞かせコミュニケーター育成講座・読み聞かせ交流会の分析-』、生涯発達心理学研究、査読無、4巻、2012、pp83-88

③岩崎衣里子・田島信元・佐々木丈夫、『絵本の読み聞かせ時の母子相互交渉と子どもの使用語彙の発達の個人差との関係』、生涯発達心理学研究、査読有、3巻、2011、pp62-72

④中島文、『母親の歌いかけによる母子相互行為と

情動調整』、生涯発達心理学研究、査読有、3巻、2011、pp45-61

⑤田島信元・中島 文・岩崎衣里子・佐々木丈夫・板橋利枝・野村宏美、『乳幼児の発達に及ぼす「歌い聞かせ・読み聞かせ」活動の構造と機能の発達:理論・仮説と検証研究』、生涯発達心理学研究、査読無、2巻、2010、pp132-156

⑥岩崎衣里子・田島信元・佐々木丈夫、『絵本の読み聞かせによる母子行動の変化と言語発達』、生涯発達心理学研究、査読有、2巻、2010、pp76-86

⑦中島文・田島信元・佐々木丈夫、『母親の歌い聞かせによる子どもの言語発達と情動発達との関係』、生涯発達心理学研究、査読有、生涯発達心理学研究、2巻、2010、pp65-75

[学会発表](計 13 件)

①岩崎衣里子・板橋利枝・佐々木丈夫・田島信元、『絵本の読み聞かせ場面と展開場面における母子相互行為の変化』、日本発達心理学会第22回大会、2013年03月15日～2013年03月17日、明治学院大学

②板橋利枝・田島信元・佐々木丈夫・中島 文・岩崎衣里子、『「歌い聞かせ・読み聞かせ」実践が母子関係の発達に及ぼす影響—「こそだて ちえぶくら」プログラムの意義と持続的効果—』、日本発達心理学会第22回大会、2013年03月15日～2013年03月17日、明治学院大学

③田島信元、『発達支援としての「歌い聞かせ」「読み聞かせ」「歌唱・読書指導」活動の位置づけと理論的アプローチ』、日本発達心理学会第22回大会、2013年03月15日～2013年03月17日、明治学院大学

④田島信元、『わかちあいを通して身につける情動と認知 その2—「歌い聞かせ」「読み聞かせ」「歌唱・読書指導」による発達支援—』、日本発達心理学会第22回大会、2013年03月15日～2013年03月17日、明治学院大学

⑤田島信元、『乳幼児の世界・絵本の世界—保育の中で果たす絵本の役割—』、日本発達心理学会第22回大会、2013年03月15日～2013年03月17日、明治学院大学

⑥田島信元、『歌と絵本が育む子どもの豊かな心と成長—発達支援としての「歌い聞かせ」「読み聞かせ」「歌唱・読書指導」活動の意義と方法—』、日本子育て

て学会第1回サテライト大会、2012年12月01日、日本公文教育研究会

⑦田島信元、『「歌い聞かせ(Singing to children)」の発達心理学—わかちあいを通して身につける情動と認知の発達—』、日本発達心理学会第23回大会、2012年3月9日～2012年3月11日、名古屋国際会議場

⑧岩崎衣里子・田島信元・中島 文・板橋利枝・佐々木丈夫、『絵本の読み聞かせを通した母子相互行為の発達の变化:母親の読み聞かせ方針の在り方と子どもの行動変化との関係から』、日本発達心理学会第23回大会、2012年3月9日～2012年3月11日、名古屋国際会議場

⑨田島信元・岩崎衣里子・板橋利枝・鈴木晴子・田代康子・秋田喜代美、『絵本の読み聞かせは子どもに何をもちたすか?』、日本発達心理学会第23回大会、2012年3月9日～2012年3月11日、名古屋国際会議場

⑩宮下孝広・田島信元・佐々木丈夫・石川 忍、『社会的活動としての読み聞かせ活動:生涯読書運動の地域的展開の過程』、日本発達心理学会第23回大会、2012年3月9日～2012年3月11日、名古屋国際会議場

⑪中島文・岩崎衣里子・佐々木丈夫・板橋利枝・田島信元、『母親の歌声の音響的特徴と子どもの行動の変化』、日本発達心理学会第23回大会、2012年3月9日～2012年3月11日、名古屋国際会議場

⑫岩崎衣里子・中島文・佐々木丈夫・田島信元、『絵本の読み聞かせ場面における母子相互交渉の変化』、日本発達心理学会(第22回年次大会)、2011年3月27日、東京学芸大学

⑬田島信元、『子どもの発達と「読み聞かせ」の効用』、日本子育て学会・白百合女子大学生涯発達研究教育センター共催年次シンポジウム(招待講演)、2010年10月16日、白百合女子大学

[図書](計 1 件)

①田島信元、『こどもが眠るまえに読んであげたい365のみじかいお話』、永岡書店、2011、p416

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

田島 信元(TAJIMA, Nobumoto)  
白百合女子大学・文学部・教授  
研究者番号:90002295

### (2)研究分担者

宮下 孝広(MIYASHITA, Takahiro)  
白百合女子大学・文学部・教授  
研究者番号:001907785

鈴木 忠(SUZUKI, Tadashi)  
白百合女子大学・文学部・教授  
研究者番号:40235966

### (3)連携研究者

なし

### (4)研究協力者

中島 文(NAKAJIMA, Aya)  
白百合女子大学・生涯発達研究教育センター・  
研究員

岩崎衣里子(IWASAKI, Eriko)  
白百合女子大学・生涯発達研究教育センター・  
研究員

佐々木丈夫(SASAKI, Takeo)  
日本公文教育研究会

板橋利枝(ITABASHI, Toshie)  
日本公文教育研究会

小栗一枝(OGURI, Kazue)  
日本公文教育研究会

野村宏美  
前日本公文教育研究センター

石川 忍  
塩尻市市民交流センター

伊東直登  
塩尻市市民交流センター